

経済・金融 フラッシュ

【台湾GDP】 成長は再び鈍化、順調回復ならず

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

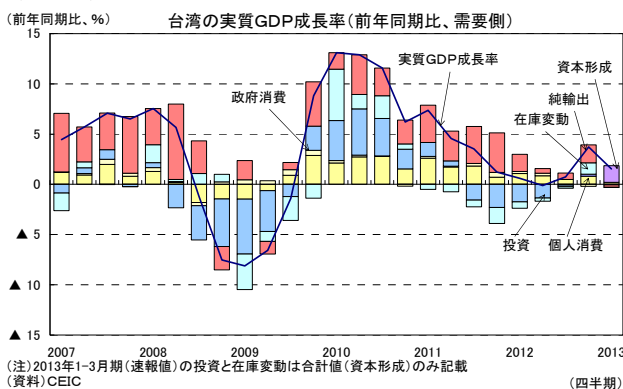
1. 現状:成長率は再び鈍化

台湾の行政院主計処（DGAS）は4月30日、2013年1-3月期の実質域内総生産（GDP）の速報値を公表した。成長率は前年同期比（原系列）で+1.54%となり、前期の2012年10-12月期（同+3.72%）から大幅に鈍化した。これは同機関が2月時点に予測していた伸び率（同+3.26%）を大きく下回る結果で、前期比（季節調整済）で見ると▲0.81%のマイナス成長だった。

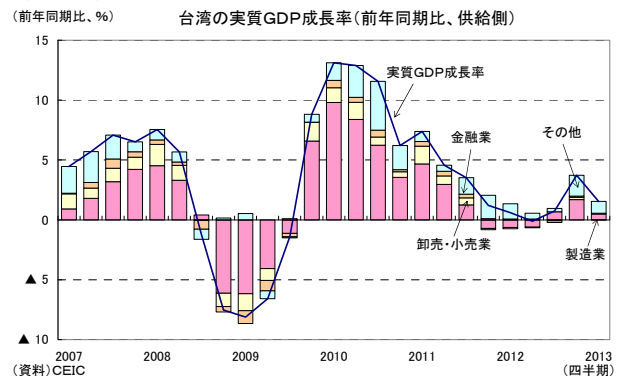
実質GDP成長率を需要項目別に見ると（図表1）、内需では消費が冴えなかった。資本形成（投資+在庫変動）は前年同期比+10.64%（前期：同+8.97%）と加速したものの、個人消費が前年同期比+0.35%（前期：同+1.55%）と大幅減速、政府消費は前年同期比▲0.52%（前期：同▲1.71%）と改善はしたもののマイナス成長が続く結果となった。純輸出に関しては、輸出が前年同期比+4.84%（前期：同+3.95%）と加速したが、輸入が前年同期比+6.92%（前期：同+2.15%）とそれ以上に大きく伸びたため、純輸出の成長率への寄与度は▲0.25%ポイント（前期：同+1.78%ポイント）とマイナスに転じた。この輸入の高い伸びが成長率を押し下げた主因であると言えるだろう。

供給側を見ると、主要産業である製造業が前年同期比+1.61%（前期：同+5.57%）と減速し、これが成長率鈍化に繋がっている（図表2）。その他の産業では、不動産業が前年同期比+4.29%（前期：同+2.75%）、建設業が前年同期比+3.03%（前期：同+0.06%）と堅調だったものの、それ以外は横ばい、もしくは鈍化している¹。

（図表1）



（図表2）



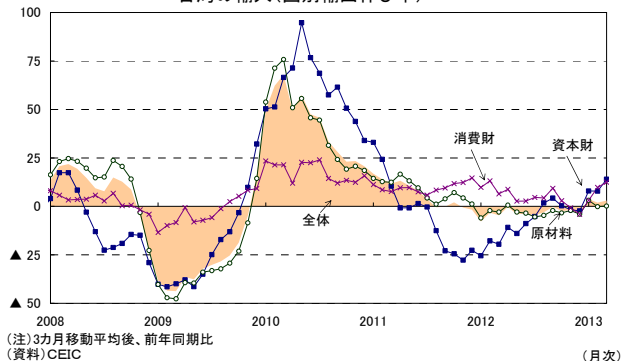
¹ 電気・ガスが前年同期比▲3.30%（前期：同+0.25%）、卸・小売が+0.46%（前期：+1.03%）、運輸・倉庫が+1.02%（前期：+0.97%）、宿泊・外食が+0.97%（前期：+0.15%）、金融が▲0.09%（前期：+1.75%）、公共サービス・防衛が▲1.87%（前期：+0.59%）であり、運輸・倉庫がほぼ横ばい、それ以外は鈍化している。

2. 先行き:過度に悲観になる必要はないが、不透明感をもたらした

2013年1-3月期のGDPは再び減速するという結果になったが、その主因は輸入の高い伸びとと考えられる。月次指標を見ると、資本財を中心に輸入が増えており(図表3)、この資本財の輸入増加は国内の投資需要の高まりを示唆しているとも言える。事実、GDP統計では資本形成が堅調に伸びており、政府が打ち出した台湾への投資回帰策などの政策が奏功した結果とも捉えられる。主要企業の動向を見ても、企業ごとにバラツキはあるものの、改善傾向が変わったわけではないことから(図表4)、台湾経済について過度に悲観的になる必要はないと言えるだろう。

ただし、先行きに対して新たな不透明感をもたらされたことも事実である。特に、輸出の改善ペースが遅れていることは、順調な回復に対するリスク要因と言えるだろう。企業の設備投資意欲が増す一方で、足もとの製造業出荷指数や生産指数はマイナス成長を記録している²。そのため、主要産業である半導体関連で、iPhone5やWindows8等の新製品への需要が一服したほか、円安によって競争力が低下するなどの悪影響が生じていることが懸念される。今後、世界経済の回復に伴って、輸出の伸びも改善していくと考えられるものの、こうした悪影響により、その回復にはラグが生じる可能性もある。台湾が輸出主導経済である以上、輸出が改善しないと個人消費の不振が長引くほか、足もとで増してきた投資意欲も削がれてしまう。それだけに、今後の輸出動向は注目と言えるだろう。

(図表3) 台湾の輸入(国別輸出伸び率)
(前年同期比、%)



(図表4)

分野	企業名	2012年		2013年		コメント		
		1-3月期 売上高	前年 同期比	1-3月期 売上高	前年 同期比			
半導体	台湾積体回路製造 (TSMC)	1,042	▲1.7	1,295	▲25.7	設備投資額を引き上げ、ファウンドリー産業の成長率見直し引き上げ		
	聯華電子 (UMC)	238	▲15.5	261	▲6.8	278	16.9	
液晶パネル	群創光電 (イクラクス)	1,073	▲11.8	1,278	▲2.5	1,282	19.5	鴻海が経営権を取得(旧奇美電子)、タッチパネル投資を強化
	友達光電 (AUO)	776	▲12.1	952	▲13.0	942	21.5	タッチパネル投資を強化
	中華映管 (CPT)	100	▲32.5	104	▲15.1	126	25.6	4K製品の販売が堅調
PC	華碩電腦 (ASUS)	792	▲35.8	1,057	▲23.3	1,143	44.3	ノートPC、タブレットが好調
	宏碁 (エイサー)	965	▲5.6	793	▲24.6	918	▲4.9	パソコン出荷量が大幅減、タブレットは好調
	広達電腦 (クアンタ)	2,235	▲7.8	2,588	▲12.2	1,973	▲11.7	
	仁宝電腦 (コンパル)	1,395	▲14.3	1,668	▲7.8	1,672	19.8	
スマホ	宏達国際電子 (HTC)	650	▲35.7	555	▲43.8	428	▲34.1	目標を大きく下回る、部品調達での滞りも発生
その他	鴻海精密工業 (ホンハイ)	7,899	42.6	9,884	7.5	8,090	2.4	今後の業績については楽観的

また長期的には、EMS(電子機器受託生産)企業³の最大手である鴻海精密工業で、事業モデルの転換が模索されるなど、従来の受託生産を中心にしたビジネスモデルで高成長を遂げることが難しくなっていることもリスクとして指摘できるだろう。EMS企業が長らく台湾の輸出を牽引してきたことは事実だが、韓国や中国の競合企業が力をつけるなか、今後も同じ牽引力を発揮できるとは限らない。

ただし、台湾では、自由経済モデル区(経済特区)を設置し、規制緩和による成長力向上を目指すなど、政府が競争力強化に取り組んでおり、その姿勢は評価できる。短期的な成長回復には、輸出環境の動向が注目されるが、長期的な視点からは、こうした政府の取り組みが円滑に進むかがより重要になってくるだろう。

² 3月の生産指数は前年同期比▲3.3%、製造業出荷指数は同▲5.2%だった(春節の影響を除いた1-2月期では、それぞれ3.2%、4.1%だった)。

³ 自社ブランドを(ほとんど)持たず、他者ブランドの製品を製造する企業。半導体の受託生産を特にファウンドリーと呼ぶ。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。